

栃事研究会報

第62号

栃木県公立小中学校事務職員研究協議会

編集発行人 吉 江 琢 也

主 な 内 容

会長あいさつ 他……………	1
新副会長あいさつ 他……………	2
研修部・研究部活動について……………	3
調査部活動・栃事研からのお知らせ……………	4

会長就任にあたって

栃事研会長 吉 江 琢 也

この度、大野前会長の後任として会長をお引き受けしました。微力ではありますが、会員の皆様の御理解と御協力をいただきながらなんとか職責が果たせればと思っています。

時代はまさに改革の波に揺られています。社会の状況は私たちに決して明るい未来を想像させてはくれません。三位一体改革に伴う義務教育費国庫負担制度廃止の論議や、着実に進められつつある公務員制度改革の進展など、教育界においても大きな変革を求められています。地方分権と規制緩和の流れの中で進められている教育改革では学校の自主性と自律性の確立を柱に、学校への権限委譲や裁量権の拡大による学校のより主体的な運営が求められ、学校が組織として有効に機能するためのシステムの改善が急務となっています。

このような状況の中、私たち学校事務職員は学校における唯一の行政職員として、校長を支え円滑な学校運営を推進し、子供たちの豊かな育ちを支援する職員として機能しなければなりません。

そのために今、あらゆる手だてを講じながら全力を尽くして取り組む姿勢が必要です。その上で私たち学校事務職員の存在価値を、学校にいる意味を検証したいと思います。

会長退任にあたって

栃事研前会長 大 野 道 久

平成13年5月の総会において、豊田 功会長の後を受け、3年間会長を務めさせていただきましたが、平成16年5月27日の栃事研総会において、会長の大役を退任させていただきました。副会長4年間と併せ、7年間の執行部役員として努めることができましたのも、各支部長さん方を始め、理事の皆様、事務局、専門部はもとより、各支部や各会員の方々の積極的な御支援と深い御理解の賜と心から感謝申し上げます。

顧みると、明治以来の教育大改革が推し進められ、中教審答申や小学校設置基準・中学校設置基準の制定、また、第7次教職員定数改善計画による事務職員加配制度が実施され、本県でも5つの地区が「学校事務の共同実施」の実践研究に取り組み始めるなど、栃事研として解決すべき課題をたくさん抱えた、大変厳しい連続の3年間であったように思います。

学校の自主性・自律性の確立、説明責任が求められる現在の現在、学校経営全般を見据えた、時代の要請に応える学校事務の再構築を早急に図る必要があります。栃事研としての課題は山積しておりますが、吉江会長をはじめ、素晴らしい役員の皆様方に継続的に取り組んでいただけるものと期待しております。

これまで多くの諸先輩が築いてこられた栃事研がますます充実・発展することを祈念して退任のごあいさつといたします。

大変お世話になりました。

栃事研究会報

第62号

栃木県公立小中学校事務職員研究協議会

編集発行人 吉江 琢也

主 な 内 容

会長あいさつ 他……………	1
新副会長あいさつ 他……………	2
研修部・研究部活動について……………	3
調査部活動・栃事研からのお知らせ……………	4

会長就任にあたって

栃事研会長 吉江 琢也

この度、大野前会長の後任として会長をお引き受けしました。微力ではありますが、会員の皆様の御理解と御協力をいただきながらなんとか職責が果たせればと思っています。

時代はまさに改革の波に揺られています。社会の状況は私たちに決して明るい未来を想像させてはくれません。三位一体改革に伴う義務教育費国庫負担制度廃止の論議や、着実に進められつつある公務員制度改革の進展など、教育界においても大きな変革を求められています。地方分権と規制緩和の流れの中で進められている教育改革では学校の自主性と自律性の確立を柱に、学校への権限委譲や裁量権の拡大による学校のより主体的な運営が求められ、学校が組織として有効に機能するためのシステムの改善が急務となっています。

このような状況の中、私たち学校事務職員は学校における唯一の行政職員として、校長を支え円滑な学校運営を推進し、子供たちの豊かな育ちを支援する職員として機能しなければなりません。

そのために今、あらゆる手だてを講じながら全力を尽くして取り組む姿勢が必要です。その上で私たち学校事務職員の存在価値を、学校にいる意味を検証したいと思います。

会長退任にあたって

栃事研前会長 大野 道久

平成13年5月の総会において、豊田 功会長の後を受け、3年間会長を務めさせていただきましたが、平成16年5月27日の栃事研総会において、会長の大役を退任させていただきました。副会長4年間と併せ、7年間の執行部役員として努めることができましたのも、各支部長さん方を始め、理事の皆様、事務局、専門部はもとより、各支部や各会員の方々の積極的な御支援と深い御理解の賜と心から感謝申し上げます。

顧みると、明治以来の教育大改革が推し進められ、中教審答申や小学校設置基準・中学校設置基準の制定、また、第7次教職員定数改善計画による事務職員加配制度が実施され、本県でも5つの地区が「学校事務の共同実施」の実践研究に取り組み始めるなど、栃事研として解決すべき課題をたくさん抱えた、大変厳しい連続の3年間であったように思います。

学校の自主性・自律性の確立、説明責任が求められている現在、学校経営全般を見据えた、時代の要請に応える学校事務の再構築を早急に図る必要があります。栃事研としての課題は山積しておりますが、吉江会長をはじめ、素晴らしい役員の皆様方に継続的に取り組んでいただけるものと期待しております。

これまで多くの諸先輩が築いてこられた栃事研がますます充実・発展することを祈念して退任のごあいさつといたします。

大変お世話になりました。



平成16年度

総会並びに研修会開催される

去る5月27日(木)宇都宮市文化会館において、平成16年度総会・研修会が開催されました。

総会では、第1号から第5号議案について審議が行われ、すべてについて可決されました。

第3号議案の「平成16年度事業計画(案)審議」では、市町村合併後の栃事研の組織の在り方について、検討される場が設けられるのかという質疑がありました。

議事終了後、旧役員に続いて吉江新会長が新役員を代表してあいさつにたち総会を閉会しました。引き続きこれまで栃事研活動に貢献され、今回退会なさった方々に感謝状が贈られました。

研修会では栃木県教育委員会総務課企画調整担当副主幹 伊藤満氏を講師にお迎えし、「栃木県教育委員会事務局の組織改編について」と題して、本年4月に行われた栃木県教育委員会事務局の組織改編の経緯や背景、また、「とちぎ将来構想」の戦略テーマの第一「生きる 学ぶ」を踏まえての組織改編の意義や目的についてわかりやすく御説明いただきました。

続いて、全国公立小中学校事務職員研究会長 神谷敏明氏からは、義務教育費国庫負担制度をめぐる現在の状況、事務職員の管理職等への任用に関する全国の実情、国の教育改革の動きやその中で教育条件整備に関する作業部会中間報告での

事務職員に関する記述について、また、事務職員の研修制度について等々、最新の情報の提供と全事研の活動について御報告いただきました。

よろしくおねがいします

副会長 篠原 実

ことしの尾瀬のニッコウキスゲは、花芽が始めた6月頃に、霜にやられてしまい、よくないと聞きました。しかし、見たところ、期待を裏切らない景観になるものと感じて来ました。

さて、私こと、昨年度まで研修部長を務めさせていただきましたが、本年度から副会長を務めさせていただくことになりました。なにぶん未熟者ですが、引き続き、みなさま方のご支援、ご協力をお願いいたします。

話は変わりますが、教育改革の具体的実施に伴い、学校現場に様々な課題が押し寄せ、私たち学校事務職員にとっても改革しなければならない課題が山積しています。また、来る公務員制度改革に向け、何を考え、何を実践すべきか、子供たちのための学校事務とは何なのか等々、考え取り組むべき事も山積しています。特に、標準的職務表を定着していくための取組み、新たな学校事務の在り方としての共同実施、そして事務職員を育成していくための研修制度など、研修部担当副会長として、微力ながら力を発揮していこうと考えております。どうぞ、よろしくおねがいたします。



平成16年度 研修部活動について

栃事研・研修部

本年度の研修部活動概要をお知らせします。会員皆様のご支援ご協力をよろしくお願ひします。

1 学校事務改善の推進

会員総ぐるみによる事務改善共同実践活動の全県テーマとして、「事務部の学校評価」を推進します。2か年計画の初年度は、「実践への提起」として情報提供をいたします。また、事務改善実践事例・財務事務改善事例の紹介も行います。

2 研修の企画立案

これからの人材育成・能力開発を目的とした、学校事務職員の研修制度を検討し提案します。

また、新加入会員を対象とした研修会、さらには学校事務研究大会（11月5日佐野市）の企画立案にも携わり、研究集録の作成も担います。一方、栃事研の中期的研究計画の更なる検討を進め、今後の研究体制を考察します。

3 情報提供

共同実施に関する実践研究を支援するため、「共同実施マニュアル」を作成します。また、昨年度に引き続いての栃事研セミナー・各支部の研修研究担当者が一同に会しての連絡協議会を企画し、県内外の情報提供を行います。さらに、各支部各市町村の研修状況を情報提供します。

平成16年度 研究部活動について

研究部長 益子周二

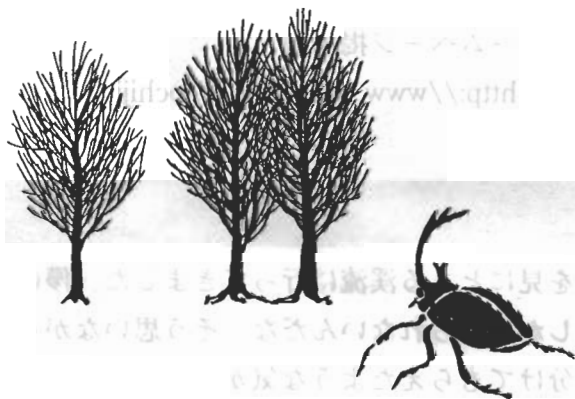
本年度の活動は、栃事研の方向性の一つ、全県を挙げて共同実施の研究に取り組むことを受けて栃木として共同実施の理論構築をすることと、日本連合教育研究大会栃木大会第11分科会（学校事務：那須地区担当）の研究協力の二つになります。

共同実施に関する研究は、昨年度の関プロ東京大会では、これからの学校事務を考えたとき教育支援を目的とし、それを達成するための手段として必要であると考えましたが、詳しい内容までは、踏み込めませんでした。今年度は、共同実施によってどうなるのか、何を目指すのかということについて考えたいと思っています。

日本連合教育研究大会の分科会は、地区担当制になっており、第11分科会「学校事務」は那須地区担当となっていますが、栃事研の研究部が協力することになっており、内容の部分を担当させていただきます。テーマは、「明日の教育に資する学校事務の創造を図る」サブテーマは「積極的に教育を支える学校事務」です。この大会は、栃事研としても初めての参加協力であろうと思われます。

提案内容は、当初昨年関プロ東京大会の提案を手直しして望む予定でしたが、参加者が校長・教頭あるいは教員が主になるであろうと予想されますので、学校をよりよくするために学校事務の分野で何ができるのか、その実現のために何が必要なのかという視点で、事務職員の立場・考えを他職種の方に御理解して頂くことにポイントを置くことにしました。B5版2ページという分量でしたので、十分な内容は盛り込めませんでした。しかし、なじみがないと思われる共同実施について、紙面を割いて説明したつもりです。これからの時間を使い、提案内容で補いたいと思っています。

会員の皆様のご指導をお願いいたします。



平成16年度 調査部活動について

調査部長 坂 本 克 巳

今年度の研究主題

「明日の教育に資する学校事務の創造」のもと目標達成のために、情報の収集と提供を積極的に行い、支部・市町村を含めた研究・研修活動の充実支援に努めていきたいと思えます。

1 情報の収集、提供及び諸調査の実施

- (1) 各支部研究・研修活動のための調査といたしまして、学校評価・事務職員の配置状況等に関する実態調査を実施し、結果をお知らせいたします。
- (2) 新加入会員研修会にてアンケートを実施し、新会員の今後の研鑽に役立てるとともに、研修内容等の資料とします。

- (3) 全事研等各種研究団体依頼の調査を実施するとともに、各県の情報と動向を資料として提供いたします。
- (4) 学校事務研究大会にてアンケートを実施し今後の研究活動への理解と高揚が図られるよう会員各位に周知します。

2 学校事務研究資料'04の発行

事務職員制度等、学校数及び事務職員数等・学校評価に関する調査結果等、会員のニーズに添った資料等を掲載し、会員の皆様に活用していただけるような研究資料作成にあたります。

以上、本年度の調査部活動の概略をご報告させていただきましたが、調査活動につきましては、会員の皆様の御理解と御協力なしには何一つ成し得ません。何卒御協力の程お願い申し上げます。

栃事研からのお知らせ

1 新加入会員研修会

期日 平成16年8月26日(木)

会場 栃木県学校生活協同組合会館

今年度新規採用の方(臨採職員を含む)5名を迎えて、栃事研概要説明や昨年度採用者の体験発表等を行いました。

2 第36回全国大会(高知大会)

7月28日～30日に全国大会(高知大会)が開催されました。本県からも、総第1号適用派遣者19名を含む多数の方が参加されました。

3 学校事務研究大会

期日 平成16年11月5日(金)

会場 佐野市文化会館

内容 全体研修

4 第37回関ブロ大会千葉大会

期日 平成17年1月27日(木)～28日(金)

会場 千葉市文化会館

内容 文部科学省行政説明・講演・分科会等

5 平成17年度研修会並びに総会

期日 平成17年5月30日(月)

場所 宇都宮市文化会館小ホール

今年度より、理事会報告につきましては、総会でご承認いただいたとおり、ホームページ掲示板からダウンロードしてご覧いただくことになりました。つきましては、紙面での配布は廃止いたしますので、その旨よろしく申し上げます。

ホームページ掲示板

<http://www.fsinet.or.jp/~tochiji/>

編集後記

7月も終わりに近いある日、ふと思立って、蛍を見にとある溪流に行ってきました。儂げな姿を見て、綺麗だなと感じると共にほんの僅かな期間しか生きられないんだな、そう思いながらも縁もゆかりもない誰かを照らす光に少し勇気と希望を分けてもらえたような気がしました。